

しまうことはありませんか？ 受講生にとってこの一言は「来るな」と同じ意味です。授業で話した内容は2割しか伝わっていない（記憶に残っていない）のが現実と心得ましょう。

7. 単位を実質化しよう!!

2単位が与えられる授業では、授業期間中に90時間の学習を必要とする内容（質と量）であることが、単位実質化の条件でした。現在もこれが目安となっています。通常授業では1学期間に授業時間以外に60時間以上の時間外学習を伴うことが2単位与えられる条件です。これが履修単位数制限の根拠となっています。

従って、授業料を払って教育を受けている学生に対して、それなりの質と量を提供することが、授業担当教員に当然求められます。Learning Portfolioを提出させるなど、受講生の学習時間を把握し、必要なら課題を出しましょう。

8. 授業評価アンケートを活用しよう!!

学期末の授業評価アンケートを基に来年度の授業改善に活かそうとしても、どれほどの効果が期待できるか「？」です。「内容が難しい」、「進度が速い」の根拠は何？でしょう。十分な時間外学習を伴っているのでしょうか？

相手が変われば抱えている問題も変わります。授業評価アンケートを使って、今学期の授業を今学期のうちに改善した方が効果が大きいようです。

●中間アンケートをしてみよう!!

第5週目ころに授業評価アンケートをやってみましょう。教員が改善アクションプランを示すこ

とも一つのフィードバックで、効果的です。アンケートを実施し、結果をちゃんと見ていることが伝わるだけでも、受講生の意識を変える効果があります。

後半の授業をアクションプランに従って授業改善してみましょう。さらに最後にもう一度アンケートを実施して、アクションプランに従った授業改善の評価をしてみましょう。1学期間にPDCAサイクルを1回まわすことができます。

2007年度に開発、試行した第5週授業評価アンケートの結果、授業改善のための授業評価アンケートとして効果的であることがわかりました。さらに受講生とのコミュニケーションツールとしての可能性に大いに期待できるものであること、相互授業参観と組み合わせるなどして、授業改善のピアサポートツールとしても活用の可能性があるなど、様々な機能を有していることがわかりました。

●ピアサポートを活用しよう!!

授業改善のためのアクションプラン作成や、ピアサポート人材養成を、総合教育センター・大学教育創造部門がお手伝いします。お気軽にご相談下さい。

連絡先：学務課総務グループ
gm04@kochi-u.ac.jp

授業をチェックしてみよう

授業を変えると学生も変わる

■ 高知大学総合教育センター・大学教育創造部門

【学生による授業評価】

教員の話し方と満足度の相関が高い

2004年度にまとめられた「学生による授業評価」報告書によれば、「**授業担当者の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすいですか**」という設問項目への回答が、「**この授業にあなたは意欲的にとりこんでいますか**」、「**授業担当者の授業に対する熱意を感じますか**」に次いで満足度と高い相関を示しました。

さらに、自由記述欄の記載を読んでも、満足度の高い授業に対する記述に比べ、満足度の低い授業に対する記述には、板書の文字が見にくい、プレゼン資料の文字が小さい、教員の声が聞こえにくい、話し方が適切でない（ぼ

そぼそ話す）、受講生の私語でうるさく聞こえない、などの記述が多いようです。

受講生にとって、板書や資料の見やすさ、教員の声や話の聞き取りやすさなど些細なことが満足度に大きな影響を与えていることが伺えます。教員のちょっとした気遣いで、ずいぶんと授業改善ができそうです。

このTips 1では、授業改善のためのチェック項目をまとめてみました。

今一度、自分の授業を見直してみよう。

「学生による授業評価」報告書（2004年度共通教育委員会）より

資料5 「質問(12)満足度」と「他の質問」との相関		「(12)全体としてこの授業にあなたは満足していますか」との相関係数*		
		2002年度	2003年度	2004年度
(1)	この授業にあなたは意欲的にとりこんでいますか	0.37	0.35	0.34
(2)	授業担当者の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすいですか	0.49	0.48	0.50
(3)	配布資料や視聴覚教材、テキストは適切に利用されていますか	0.40	0.42	0.43
(4)	授業の進捗や内容の量、時間配分は適切ですか	0.45	0.46	0.45
(5)	授業から触発され、問題意識をもつことが多くありますか	0.48	0.47	0.49
(6)	授業担当者の授業に対する熱意を感じますか	0.53	0.50	0.53
(7)	講義室等の状態（広さや明るさ、室温等）や設備は適切ですか	0.21	0.21	0.20
(8)	この授業の受講生数は適切ですか	0.23	0.23	0.23
(9)	この授業にはあなたはよく出席しますか	0.14	0.12	0.17
(10)	この授業ではあなたは私語をしますか	0.06	0.06	0.06
(11)	この授業にあなたは意欲的にとりこんでいますか	0.59	0.60	0.61
(13)	この授業では受講生同士協力することができていますか	0.30	0.29	0.25
(14)	この授業では安全に関する適切な指導と配慮はなされていますか	0.18	0.26	0.12

*相関係数：資料の場合、設問12(満足度)に対する回答と他の設問に対する回答の類似性を示しています。類似性が高いとき相関係数は1に近づきます。0.4～0.7の値は、「かなり関連がある」と評価されます。

1. スイッチを入れよう!!

授業のはじめに、【今日は何をするのか説明する】、【毎回フィードバックから始める】、【必ず挨拶をする】など、“今から始まり”のスイッチを入れましょう。

学生の集中力は意外に持続しないようです。スイッチを入れられないまま開始すると、なおさら集中できないまま時間が過ぎてしまうようです。それが授業中の私語につながり、他の受講生のやる気をそいでいる様子も前述のアンケート調査からうかがえます。自分の授業に合った、スイッチを入れる工夫を試してみましょう。

2. 「声は聞こえますか？」と確認してみよう!!

教員の声の聞きやすさは、前述の授業評価の結果のとおり、受講生にとって重要な要素です。教員の声や話し方は、受講生にとって本人が思っているほど聞き取りやすくない場合もあるようです。まず確認してみましょう。

●マイクの使い方にも要注意!!

ピンマイクは予想以上に感度が良いものです。口に近づけると、雑音が入って聞きづらいものです。ピンマイクはネクタイや襟に付け、直接息がかからないように注意しましょう。もし心配ならよく聞こえているかどうか、確かめてみましょう。

ハンドマイクには指向性があります。マイクの先端を持たない、マイク（の軸方向）を口の方に向けるのがコツです。咳払いしたり、笑ったりするとき、手を口に近づけるのが条件反射になっていると、そういうときにマイクを口に近づけてしまい雑音の原因になります。これを気持ち悪がる人も多いようです。こういうときはマイクを口か

ら遠ざけるよう注意しましょう。

必要以上に大きな声で話すのもよくありません。充分聞こえているか確認しましょう。聞こえていれば、必要以上に大きな声で話さないように心がけましょう。

ワイアレスマイクの場合は、途中で電池が切れていることもあります。教員には気付きにくいものですが、受講生も何も言わないことが多いようです。よく使う方は、電池を持ち歩くようにしましょう。

●言い間違ったときは落ち着いて

言い間違った時ほど早口になりがちです。ちょっと落ち着いて、ゆっくり、正確に話しましょう。腹式呼吸を意識して話すのも効果的です。「聞き取りやすく」を意識して呼吸をしましょう。落ち着きを取り戻すために、深呼吸をしても良いでしょう。

3. My マーカーを携帯しよう!!

薄いマーカーが板書を見にくくし、受講生のやる気をそいでいるようです。黒板の時代にチョークを持ち歩いていたように、自分専用ホワイトボードマーカーを持ち歩きましょう。

太い黒色マーカーの他、赤、青、緑など複数の色をそろえましょう。板書の色を変えると、受講生もノートに取るときまねをします。ペンの色を変えることで、スイッチを切り替える効果もあります。重要なところ、興味が持たれるところなど一定のパターンで色の使い分けをするのも効果的です。

色が出なくなったマーカーは片付けましょう。大学生協ではインク補充式、カートリッジ式の使

い捨てでないマーカーが注文できます。

4. アイコンタクトをしよう!!

話をするとき、相手の目を見るのはコミュニケーションの基本です。受講生の様子を観察しましょう。反応を見ながら授業を進めましょう。

●受講生はコミュニケーションを求めている!?

やる気のある受講生ほど教員とのコミュニケーションを求めているようです。教員とのコミュニケーションがやる気につながる場合があります。

電子メールの活用、大福帳の活用、チャレンジペーパーの活用など、自分に合ったツールを活用しましょう。携帯電話も可能性の大きなコミュニケーションツールです。

●フィードバックは効果的

アンケート、小テスト、レポート、定期試験など、フィードバックしましょう。フィードバックがないことを不満に思っている場合もあります。フィードバックがやる気につながる場合も!! フィードバックも効果的なコミュニケーションツールです。

5. 大福帳を活用しよう!!

前述の通り、教員とのコミュニケーションを求めている学生は意外に多いようです。フィードバックも同様です。これらを同時に行うツールが「大福帳」です。

授業の終わりに5～10分程度時間を取り、授業の感想など（教員の質問に対する回答でも良い）を書かせ、それに対する教員のコメントを付けて次回の授業で返します。15回分を1枚のシー

トにまとめ、毎回の積み重ねによって受講生自身が成長を実感することができるシャトルカードです。

“福”をもたらすので「閻魔帳」ではなく「大福帳」であるというのが名前の由来です。教員個人と学生個人の通信のため、他の受講生に見られたくないことも書けるメリットがあります。

電子メールでは毎回の積み重ねがしにくいですが、大福帳を電子ファイル化することは可能です。

●受講生への公開が効果的な場合も!!

フォーラムを使って受講生が相互に提出課題を見ることができるようにする方法もあります。この場合、受講生がお互いに影響し合い、課題の質を上げる効果が生じます。目的によって使い分けが効果的です。

オンライン学習支援システムでは、教員がメンバーを設定して自由にフォーラム（電子掲示板）を立ち上げることができます。

6. 公平、公正な発言を心がけよう!!

卒業して何年も経つのに、「あのときの授業担当教員のあのひと言が忘れられない」という経験がある人は意外に多いようです。卒業までの短い間であれば、記憶に残っている影響を受けた一言は実はもっと多いはずですが。教員の偏見が、受講生のやる気をそぐ場合もあります。負の影響を与えないために、公正、公平を心がけましょう。星座、血液型、性、宗教などに関する話は要注意です。

●やる気をそいでいませんか?

せっかく勇気を振り絞って研究室まで質問に来た学生に、「それは授業で説明したよ」と言って